

JA全農ウィークリー

3
面

JA-POP甲子園2019の 最優秀賞決まる（耕種資材部）

2面

「ホワイト物流」推進運動の
自主行動宣言提出（経営企画部）



国土交通省のモーダルシフト効率化事業に認定された生乳のフェリー輸送＝全農物流(株)(2面)



「FFJの歌」の動画のワンシーン。なつぞらに出演した広瀬すずさん(右)、草刈正雄さんも登場＝NHK提供(4面)



JA-POP甲子園2019のラウンドアップ部門大型陳列で最優秀賞を受賞したJAおちいまばり(愛媛県)のJAグリーンしまなみ大三島のディスプレイ(3面)

- 2 第3回和牛甲子園出場校決まる(畜産総合対策部)
- 3 全農グループ会社代表者セミナー開催
(グループ会社統括部)
- 4 南東北で日本学校農業クラブ
全国大会開催へ(広報・調査部)
- 5 JAズームイン(滋賀:JA東びわこ)
- 6 青果情勢(園芸部)
- 7 畜産情勢(畜産総合対策部)
- 8 新幹線で新潟の美食を召しあがれ(新潟県本部)

「触れる地球」好評貸し出し中(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

UMAIZOマーケット(株)エーコープ関東)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

卓球ドイツオープン日本代表選手団を「和食」で応援(広報・調査部)

**宮城・長崎で野球教室開催
プロ選手が熱血指導（広報・調査部）**

ラジオ出張放送やイベントで「直売所の日」PR(広報・調査部)

全農みんなの料理教室を開催
(広報・調査部)



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちらから



News!



「ホワイト物流」推進運動の自主行動宣言を提出

持続可能な物流の実現に向けて

経営企画部

全農が提出した「自主行動宣言」の取り組み項目

- ①物流の改善提案と協力 ②パレット等の活用
③幹線輸送部分と集荷配送部分の分離
④集荷先や配送先の集約
⑤運転以外の作業部分の分離
⑥船舶や鉄道へのモーダルシフト

「自主行動宣言」の全文はこちら



国土交通省のモーダルシフト効率化事業に認定された生乳のフェリー輸送（全農物流株）



「ホワイト物流」推進運動は、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化を通じて、女性や60代以上の運転者が働きやすい、より「ホワイト」な労働環境の実現を目指す運動です。

ローリーを使った生乳輸送でモーダルシフトを進め、昨年、国土交通省のモーダルシフト効率化事業に認定されました。

今後も、「自主行動宣言」の下、安全・安心な国産農畜産物を消費者に届けると共に、農家・組合員の営農や生活を支えるため、物流課題の解決を図り、持続可能な物流の確保に取り組みます。

全農は9月27日、国土交通省・経済産業省・農林水産省が推進する「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、持続可能な物流環境の実現に向けて「自主行動宣言」を「ホワイト物流」推進運動事務局に提出しました。

News!



17県30校の“高校牛児”たちが頂点目指す

第3回和牛甲子園の出場校決定

畜産総合対策部

第2回和牛甲子園の枝肉勉強会の様子



全農が来年1月16日〜17日に開く第3回和牛甲子園に、17県から30校の出場が決まりました。

和牛甲子園は、和牛を肥育する全国の農業高校の生徒たちが、肥育に関する日頃の取り組み内容と、育てた和牛の肉質を競う大会です。

第3回出場校30校のうち、9校が初出場です。出品頭数

も、前回より17頭増え、45頭となりました。

出場校が増え、全国的な広がりを見せる和牛甲子園。“高校牛児”たちの熱い戦いに期待ください。

「和牛甲子園」初出場の9校

- 青森県立三本木農業高等学校
- 福島県立会津農林高等学校
- 群馬県立利根実業高等学校
- 神奈川県立中央農業高等学校
- 愛知県立渥美農業高等学校
- 岡山県立瀬戸南高等学校
- 広島県立西条農業高等学校
- 広島県立庄原実業高等学校
- 熊本県立南陵高等学校



和牛甲子園

第3回和牛甲子園
出場校や開催概要
などはこちら



「和牛甲子園」公式ホームページ



全農グループ会社代表者セミナーを開催

事業競争力強化の取り組み方向性など共有

グループ会社統括部

国内グループ会社111社の代表者が出席したセミナー



講演する松浦氏



同セミナーは全農のトップメッセージを直接伝えること、外部講師による講話や事例発表を通じた経営者としての意識向上、また会社間の交流と連携の促進を目的に毎年開催しています。今年度は、「全農グループ会社の事業競争力強化」をテーマとし、5年後、10年後を見据えた全農の目指す方向や、グループ会社を取り巻く課題や今後の検討の方向性について共有しました。事例発表は(株)えひめ飲料の山本卓治社長から、製造工場への投資やブランド強化について紹介がありました。

また、松浦洋氏(元全農監事)からは「全農グループの事業競争力強化に向けた提言」と題した講話をいただきました。

全農は9月12、13日、東京都内で全農グループ会社代表者セミナーを開きました。国内グループ会社111社の代表者と全農の役員、各局部長など約160人が出席しました。



魅力的な店舗づくりで親しまれるJA店舗へ!

JA-POP甲子園2019の最優秀賞決まる

耕種資材部



ラウンドアップ部門簡易陳列で最優秀賞を受賞したJA香川県ふれあいセンター多度津店のディスプレイ

初年度は34JA、43店舗でスタートした企画ですが、今年度は40都府県の129JAから443店舗の参加となりました。今大会から「テーマ別部門」を新設。全農営農資材事業所やJAの店舗ごとに販売力強化のテーマを設定し、そのテーマに基づいた農作業管理や新商品などの陳列を行いました。

受賞作品の中には地域性を生かしたPOPでオリジナリティーを出したものもあり、多くの方の注目を集める陳列が増加する傾向にありました。

全農は9月13日、JA資材店舗での農薬の陳列・POPを競い合う「JA-POP甲子園2019」表彰大会を東京都内で開きました。「JA-POP甲子園」は今年で19年目となります。

最優秀賞受賞店舗

ラウンドアップ部門

大型陳列	愛媛県	JAおちいまばり	JAグリーンしまなみ大三島
簡易陳列	香川県	JA香川県	ふれあいセンター多度津店

作物別部門

茨城県	JA水戸	南部営農資材センター ひぬまセンター
-----	------	--------------------

♪全国へ響け、FFJの歌♪

農業高校生の祭典 「第70回日本学校農業クラブ全国大会」 今月 南東北で開催

「第70回日本学校農業クラブ全国大会」が10月22～24日、南東北3県（山形県、宮城県、福島県）で開かれます。この大会では全国から4000人の農業高校生が集い、プロジェクト発表会、平板測量競技会、農業鑑定競技会などのイベントや交流会などが行われます。

【広報・調査部】

日本学校農業クラブ連盟（FFJ: Future Farmers of Japan）は1948（昭和23）年、高等学校で農業を学ぶ生徒たちの、自主的・自発的な活動組織として全国の農業高校で誕生しました。以来60余年、科学性・社会性・指導性を三大目標とし、将来の農業や関連産業で社会に貢献し、活躍できる人材の育成を目指して活動してきました。

今年は70年目の節目となる大会として、山形県（主管）、宮城県、福島県の南東北3県の共同開催となります。2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援への深い感謝を示すとともに、東北6県のクラブ員が「がんばろう！東北」の名の下に、お互いに友情を深め、絆を共感できる機会とし、全国の農業クラブ員と新しい時代の夢と希望を育む大会と位置付けられました。南東北3県が一つになり豊かな自然や食・文化を発



昨年の日本学校農業クラブ全国大会の様子（日本学校農業クラブ連盟提供）

信するとともに、新時代の農業や環境、地域文化の創造者を目指すきっかけとなる大会となるよう準備が着々と進められています。

「なつぞら」で注目！ FFJの歌

FFJの公式ソング「FFJの歌」は、9

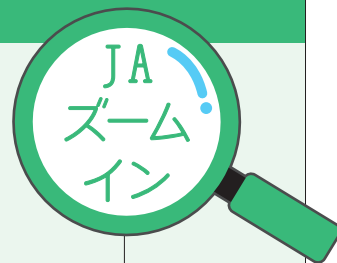
月に放送終了したNHKの連続テレビ小説「なつぞら」で広瀬すずさん演じる主人公の奥原なつが何度も歌い話題となり、全国のJA関係者、生産者にもおなじみの歌です。NHKが「FFJの歌」の歌唱動画を募ったところ、全国から多数の応募がありました。NHKは応募された動画を2本の動画にまとめており、札幌放送局の特設サイトで紹介しています。ぜひご覧ください。11月2日にはNHKBSプレミアム（103チャンネル）でスピンオフドラマでも再び歌われるとか。そちらもお楽しみに。

「FFJの歌」の動画のワンシーン。なつぞらに出演した広瀬すずさん⑤、草刈正雄さんも登場（NHK提供）



NHK札幌放送局の
特設サイトはこちら





共同利用施設の集約と

設備高度化で事業効率化

JA東びわこは管内に5カ所の共同利用施設を有しており、職員の応援体制や農産物検査員などの人員配置のロスや多様化する作付け環境への対応などさまざまな課題に直面しています。また、老朽化などによる施設の維持修繕にかかる管理コストは年々増加しており、今後の経営に大きな影響を与えるとみています。

農家組合員への利益還元で農業施設改修5カ年計画

JAでは平成23年度から、稼働施設の問題点や施設整備内容の整理を目的に「農業関連施設集約化検討委員会」を立ち上げ、検討してきました。加えて平成29年度からは、物流・収益構造の改

善を行い、農家組合員への利益還元を目的として、「農業施設改修5カ年計画」をもとに共同利用施設の集約化を実践しています。

この計画では、令和2年度以降、施設を米・麦・大豆などの作物ごとに分けて稼働することで効率化を目指しています。水稲では、荷受けから調製・貯蔵・出荷などを一貫して行うメイン施設を既存の5カ所を2カ所に集約します。その他の施設は横持ち移送を前提とした荷受け業務に特化するサテライト化を行うことで施設稼働時間を減らし、光熱費や人件費の削減を目指します。特別栽培米や飼料用米などについても施設ごとに役割を明確化しています。



新たに導入したトラックスケール

将来見据え共同利用施設の完全集約化に向けて準備
平成30年度はメイン施設の厚生社カントリーエレベーター（CE）で、荷受けトラックスケール・色彩選



改修した主操作盤

別機の導入や^{もみすり}攪拌プラント設備・主操作盤改修を行うことで、荷受け時の混雑緩和や処理能力が向上し、今年の麦收穫シーズンから稼働しています。
今後JAでは来年度に乾燥設備の改修を予定するなど、将来を見据えた共同利用施設の完全集約化に向けての準備を進めています。

JA東びわこ（滋賀県）



概要		平成31年3月31日現在
正組合員数		7712人
准組合員数		1万3438人
職員数		491人
販売品取扱高		26億9千万円
購買品取扱高		15億9千万円
貯金残高		2429億4千万円
長期共済保有高		5632億4千万円
主な農畜産物	梨(彦根梨)、近江米、多賀にんじん、秦荘のやまいも	

設備導入や改修で荷受け時の混雑緩和や処理能力向上が期待される厚生社CE

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜



果 実

夏秋産地から関東産地へ

概況

10月は果菜・葉茎菜類を中心に、関東などの平野部からの出荷が増加してきます。

キャベツは群馬などの高冷地に加え、千葉や茨城からの出荷が始まります。千葉・茨城は夏季の干ばつと台風15号の影響からやや遅れておりますが、前年並みの出荷量を見込みます。

ハクサイは長野に加え、後続の茨城などからの出荷が始まります。9月の降雨により玉肥大は良好となっています。出荷量は前年並みを見込みます。

ダイコンは北海道・青森などが中心の出荷となります。下旬からは関東産地からの出荷も本格化してきます。台風15号の影響によりやや播種が遅れていますが、前年並みの出荷量を見込みます。

ニンジン北海道などが中心の出荷となります。北海道が出荷終盤を迎え、青森が増量となります。不作であった前年を上回る出荷量を見込みます。

レタスは長野・群馬・岩手などの夏秋産地から、後続の茨城へと切り替わっていきます。夏秋産地は出荷終盤から漸減し、茨城の台風被害は軽微で徐々に増量します。前年並みの出荷量を見込みます。

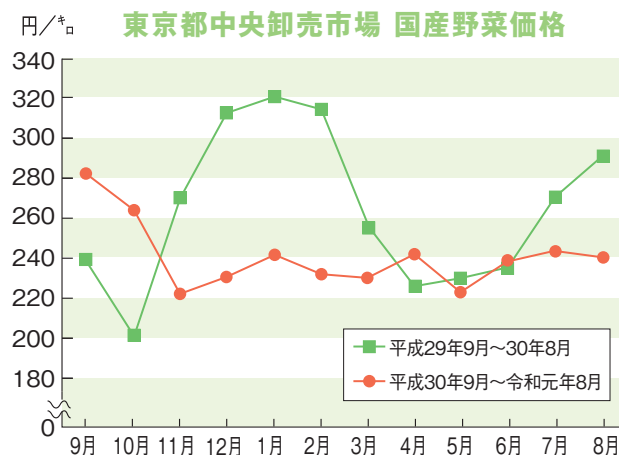
トマトは東北産地から、関東や九州産地へと切り替わります。関東は台風の影響と、九州は8月の長雨の影響から前年を下回る出荷量を見込みます。

キュウリは、東北産地が減少し、関東産地が中心となります。東北産地は出荷終盤から減少となりますが、関東産地は作柄良く、前年並みの出荷を見込みます。

パレisho・タマネギは、北海道が中心の出荷となります。産地によりばらつきはありますが、玉肥大良好であるため、前年を上回る出荷量を見込みます。

店頭

食欲の秋・行楽の秋を迎え、店頭の販促企画もにぎやかになります。天ぷら・サラダ料理に加え、「鍋」や汁物、シチューなどのメニューに関連したコーナーが展開されます。



主産県
だより

9月はキャベツ、ハクサイ、レタス、夏秋ピーマン、梨、リンゴの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

秋の味覚が勢ぞろい

概況

10月はミカン・リンゴ・ブドウ・柿・栗など、代表的な果実が出回る時期となります。

ミカン類は、熊本・長崎・愛媛などを中心に、極早生種の出荷が本格化します。

やや小玉傾向ですが、ここへ来て糖度も上昇し、出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

梨は、栃木を中心に「新高」や「にっこり」、長野の「南水」などの品種が中心となります。昨年より遅い出荷ペースとなっていることから、10月の出荷量は前年をやや上回る見込みです。

リンゴは、青森・長野などが中心の出荷となります。「つがる」が9月末でほぼ終了し、「早生ふじ」や「秋映」、「シナノスイート」、「秋陽」などの中生種の出荷が本格化してきます。生育は早かった前年よりやや遅いですが、食味も充実しており、バラエティーに富んだ品種を楽しめる時期となります。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

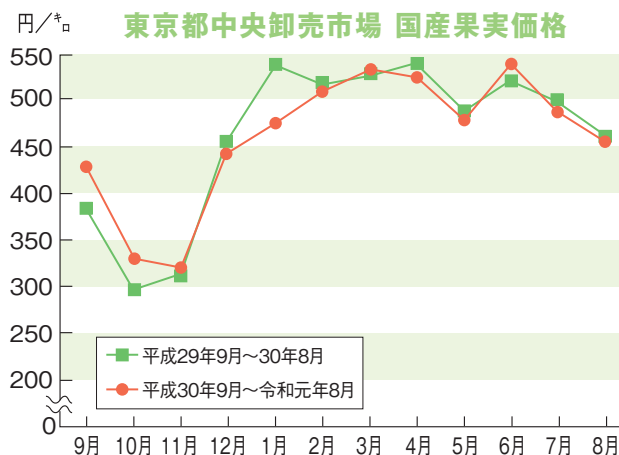
柿は、和歌山・奈良・福岡などが中心の出荷となります。「刀根早生」に加えて、「平核無」の出荷も始まってきます。昨年は主産地の和歌山・奈良で台風被害により出荷量が少なくなりましたが、今年はおおむね順調な生育となっており、出荷量は前年を上回る見込みです。

ブドウは、長野・岡山・山梨が中心の出荷となります。出荷量は、春先のひょうや霜、長梅雨の影響により前年をやや下回る見込みです。

栗は、茨城が中心の出荷となります。台風15号の影響により、前年を下回る出荷量となる見込みです。

店頭

秋本番となり、収穫フェアや県産フェアなどの企画が多くなります。果実売り場にリンゴ・ブドウ・ミカン・柿などが所狭しと並べられ、一年で最も活気づく月です。果実をもっと食べていただく良い機会です。



[畜 産 情 勢]

(畜産総合対策部)



牛 肉

少しずつ堅調さ増す

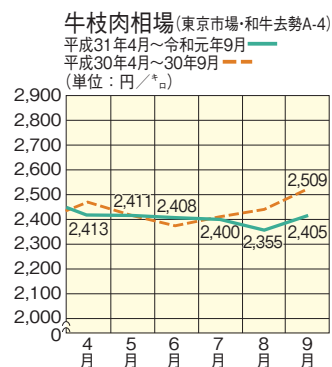
9月の成牛と畜頭数は、速報値で約8万頭(前年比98.4%)と前年を下回りました。

9月の東京市場枝肉卸売価格は速報値で、和牛去勢A5が2718円(前年比96.5%)、和牛去勢A4が2405円(同95.9%)、和牛去勢A3が2160円(同95.6%)、交雑牛B3が1612円(同101.8%)、乳牛去勢B2が976円(同93.9%)でした。

農畜産業振興機構が公表した10月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約4万頭(前年比103.1%)、交雑牛が約2万1千頭(同99.1%)、乳牛種が約3万頭(同98.1%)で、全体では約9万3千頭(同101.1%)と見込んでいます。

9月の枝肉相場は、特に和牛は市中在庫の多さから月初はやや軟調な展開とみられていましたが、和牛去勢A5、A4は月間平均で8月を上回る水準に戻しています。

10月の枝肉相場は、年末年始販売用の枝肉手当(凍結用)も始まる時期であり、少しずつ堅調さを増していく展開になるものと想定されます。



豚 肉

需要は底堅く推移

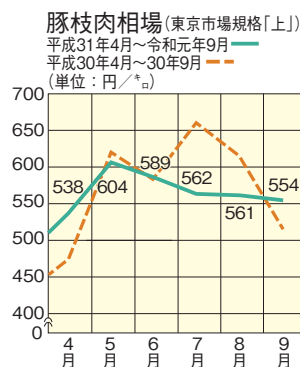
9月の全国と畜頭数は、速報値で約126万頭、前年同月比106.6%です。

9月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値で554円/kg(前年同月比108.0%、前月比98.8%)でした。

3連休が2回となった今年9月は、比較的涼しい気候を背景に、需要筋による棚換えや、販促の一部が国産豚肉にシフトしたこともあり、需要面では久しぶりに底堅い状況となりました。こうした気候を背景に肉豚の出荷も堅調な動きをみせたものの、9月9日に関東へ上陸した台風15号は、相場にも影響を与え、当初の予想を超える相場展開となりました。また、13日に関東でも初めて豚コレラの発生が確認され、そのことが相場にどう影響を与えるのか注目されましたが、影響は限定的な形となりました。

農畜産業振興機構発表の10月出荷予測頭数は、約142万頭(前年同月比94.6%)です。

10月は供給面では涼しい気候を背景に、堅調な肉豚出荷が見込まれる一方、需要面では需要筋によるスライス物を中心とした売り場の棚換えと、国産豚肉へシフトした販促に支えられ、国産豚の需要は底堅く推移していくものと見込まれることから、それになりに需給バランスが取れる状況になるのではないかと予測します。

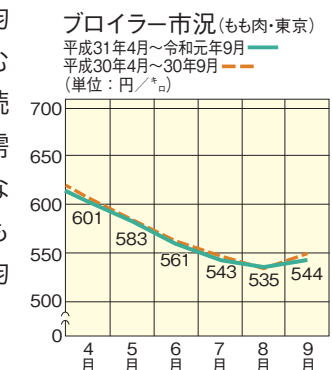


鶏 肉

もも肉560円、むね肉250円

9月の平均相場は、もも肉544円/kg(前月比+9円)、むね肉235円/kg(同+10円)、正肉合計で779円/2kgと前月比で19円上回りましたが、前年比では36円下回りました。もも肉は月初め538円で始まり、一時550円台を記録するも月中乱高下があり、月末は548円で結果10円高となりました。むね肉も、量販店などの特売用や加工向けに一定需要があり、月初228円、月末245円とじり高となりました。

気象庁の1カ月予報では、10月の気温は平年より高い傾向が続く、季節の歩みはゆっくり進むとしていますが、イベント・行楽などで需要増加も期待されるため、もも肉は月平均560円と予測します。むね肉についても、引き続き量販店などでの特売需要やサラダチキン向けなどの加工筋の引き合いも堅調で上げ基調の月平均250円と予測します。



鶏 卵

台風の影響に注視

9月の東京相場の月間平均は、Mサイズ基準値179円(前年比△5円)となりました。台風15号による供給減の影響もあり、上伸の展開が続く9月末の時点で昨年同時期比+10円の展開となりました。

9月は、大手外食チェーンのプロモーションや学校給食の再開による問屋筋の復調など引き合いが強まる中、台風15号による罹災によって突発的に供給量が減少したことで、需給バランスは急速に逼迫しました。

さらに停電による熱死や意図しない強制換羽などによって、影響が長引いたことで供給不足の状況が続くこととなりました。

今後については、一定期間は台風罹災の影響により供給量は少なめで推移することが推測されますが、被災地において生産量が回復すれば需給バランスは均衡が保たれることが予想できます。

需要面については、9月の供給不足によって流通在庫が減少したと考えられる加工筋の動きが価格動向に影響を与えることが予測されます。



新幹線で新潟の美食を召しあがれ!

スマホで注文、座席までお届け

新潟県本部はJR東日本とコラボして10月8日~12月26日、上越新幹線車内で新潟県産の食材を使った食事や飲み物を楽しめる「『美食旅』新幹線 TRAIN DELI」を開催します。【新潟県本部】

新潟県本部が運営するレストラン「カフェ&グリルみのりみのり」が監修し、新潟県産の食材を使った食事や旬の果物を使用したスイーツなどを提供。特定の便のグリーン車、グランクラスが対象で、QRコードをスマートフォンで読み取り注文すると、専属のクルーが席までお届けします。

また、スマートフォン画面内で、メニューで使った県産農産物に関する生産者の声や豆知識を紹介します。

車内で提供する「にいがた和牛と八色しいたけのトマト煮込み」



スマートフォンでQRコードを読み取り注文

開催概要

- 1.期間 10月8日(火)~12月26日(木)
- 2.対象列車・車両 とき320号(新潟駅12:35発~東京駅14:48着)、とき327号(東京駅15:16発~新潟駅17:04着)のグリーン車(11号車)・グランクラス(12号車)
- 3.メニュー(10月) にいがた和牛と八色(やいろ)しいたけのトマト煮込み(820円)、新潟県産いちじく「越の雫(このしずく)」の焼ドーナツ・越後味噌(みそ)の焼ドーナツ2個セット(600円)、「新之助」玄米茶(150円)。メニューは月ごとに変更となります。

「触れる地球」好評貸し出し中 直売所やイベントなどで活用を

全農は、デジタル地球儀「触れる地球」(小型版)の貸し出しを行っており、全国各地でご活用いただいています。【広報・調査部】

「触れる地球」は、リアルタイムの雲の様子、地球の温暖化、台風・津波の発生過程などを体感できます。メトア ギンザ 東京・銀座の三菱電機イベントスクエアMETOA Ginzaで開催中の「でんき島の大冒険」でも展示されています(11月11

日まで、入場無料)。「触れる地球」の貸し出しに関しては、広報・調査部広報SR課(TEL:03-6271-8056、メール:zz_zk_koho@zennoh.or.jp)までお願いします。



「でんき島の大冒険」で展示されている「触れる地球」

JAタウン ショップ紹介

JAタウン

検索
クリック

UMAIZOマーケット(株エコーブ関東)



水上さんの選んだ産直野菜詰合C(6品目前後)……2700円



「UMAIZOマーケット」は、群馬県のおいしいお肉・野菜を中心に、群馬県産素材を使用した加工品、そして日本全国の商品も幅広く取りそろえております。生産者が餌や飼育方法にこだわり、大切に育て上げた上州牛・上州豚は、大変ご好評をいただいております。

野菜や果物は、エコーブ関東直営店「ファーマーズマーケット」の地元生産者コーナーより、その時々旬のものを店舗スタッフが厳選しております。生産者とお客さまを結ぶ懸け橋として、「安全・新鮮・おいしさ」にこだわり、自信をもってお届けします。今回ご紹介する「産直野菜詰合」は、季節によってお届け内容が変わりますので、中身は届いてからのお楽しみです!群馬の旬をぜひ味わってみてください。

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com> ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。